

令和5年度 府中市立若松小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力に個人差があるため、物語文や説明文の内容を順序だてて読みとる力を高める必要がある。 ・自分の思いや考えを相手に分かりやすく話すことのできる力を養う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読や読み聞かせ、言葉遊びなどを行い、語彙を増やすようにする。大切な言葉や理解が難しい言葉にはラインを引き、共通認識できるようにして読み取らせる。また、ワークシートを活用して文章の構成を確認しながら学習を進めていく。 ・話し方のモデルを示したり、話す内容を整理するための話型ワークシートを活用したりするなど異なる方法で指導するなどして、相手意識をもって話せるようにする。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・10の合成分解の理解を深め、計算力を伸ばす必要がある。 ・問題文を正しく読み取ったり、立式したりする力を育む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーミングアップで10の補数や計算カードを行ったり、計算ドリルを繰り返し行ったりして、計算力の向上を図る。 ・場面絵や作図を通して、加法及び減法の意味を理解し、立式できるようにする。 ・問題文のキーワードに印を付け、何が大切なかを意識できるようにする。 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験の差があるため「季節を身近に感じる」「植物・昆虫などに直接触れたりすること」「自然素材などでおもちゃを作り遊ぶ活動」を通して、自然愛護、自分たちの遊びや生活を向上しようとする態度を育てる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アサガオや花の観察（手で触る・観察カードに絵で描く・言葉で書く）、世話をすることで自然と関わり理解を深められるようにする。 ・四季ごとの植物や昆虫等をICT機器（タブレット端末のカメラ）で撮影し、子供達一人一人の見方で記録をとり、それを共有する楽しさを味わえるようにする。 ・自然素材や空き箱などの身近な素材を使っておもちゃ作りをすることで、友達と協力して楽しく遊べるようにする。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の雰囲気を感じ取って表現する力を育成していく必要がある。 ・鍵盤ハーモニカに親しみ、正しい指使いや吹き方を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れに乗って表現の仕方を工夫し、身体表現、言葉や手拍子を組み合わせたリズム遊びなどを取り入れ、表現を広げるための技能を身に付けられるようにする。 ・指遊びを取り入れることで、指の動きをスムーズにし、鍵盤ハーモニカの演奏につなげる。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・経験の差があるため、道具の使い方、箱などを何かに見立てる力などを伸ばすとともに、すすんで楽しく表現できるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の使い方を提示し、他教科でも経験する機会を増やしていく。 ・手本を提示したり材料を多く用意したりすることで、イメージが膨らみ、楽しめるようにする。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動についての経験差があるため、基本的な動きを身に付ける必要がある。 ・決まりを守り、誰とでも仲良く運動を行えるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら様々な運動を経験し、基本的な動きを身に付けられるようにする。 ・ルールや約束を明確に示し、順番や決まりを守ることや協力して仲良く取り組めるようにする。 		

令和5年度 府中市立若松小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の出来事や自分の思いや考えを、文章に書き表す力を身に付けていく必要がある。 文字を正しく読むことを意識し、内容を正しく理解する力が必要である。 自分の思いや考えをもって、自分なりの言葉をつかって表現する力を伸ばし、発表しようとする意欲を高めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことを振り返ったり、自分の考えをもったりする時間を設定し、文章に書く機会を増やす。手本となるような文章を提示し、よりよい表現方法について選択させて気付かせる指導を工夫する。 言葉のまとまり等を意識させて、音読の習慣を身に付けていく。 自分の思いや考え等を、ワークシートに記入し、自信をもって発表しようとする意欲につなげる。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がりのあるたし算・繰り下がりのあるひき算が苦手な児童が多いので、計算力を高める必要がある。 問題文の読み取りや、図や式で自分の考えを表現することが苦手な児童がいるので、題意を読み取る力や表現する力を育む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ブロックなどの具体物を使用したり、定期的に計算テストを実施したり、e ライブラリを活用したりして一人一人に応じた習熟を図る。 問題文のキーワードに印を付けたり、具体物や図を用いたりして、問題場面を想像しながら立式できるようにする。 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> 自己の生活に関わる人や生き物、町の様子に関心を持ち、自ら調べようとしたり、働きかけようとしたりする力を育成する必要がある。 身近な地域の場所と自分との関わりについて考える力を伸ばしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の授業では、積極的に実物を用意したり、実際の様子について写真や動画の資料を用意したりすることで興味・関心を高め、学習をすすめていく楽しさを感じさせる。 校外学習では、事前に自分の生活との関わりを考えさせたり、事前に調べたりする。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の基本的な音符や拍、音階等についての理解を高めていく必要がある。 手先をより器用に動かし技術面を伸ばしていく必要がある。 表現力や想像力を発展させ、グループ活動を通して演奏する力を身に付けさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲームやアクティビティを通じて音楽の基本的な要素を体験する。 感情表現をするために、鑑賞や歌詞、旋律に合わせて、背景や感情の理解を考え、感じてもらう。 グループでの活動や練習を通じて、役割分担やチームワークを体験してもらう。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 紙、はさみ、のりを扱うといった、細かな作業に取り組む技能を高めていく必要がある。 自分が表現したいことをどのように表すかについて考えさせたり、自分たちの作品を見て見方や感じ方を広げたりする支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 書画カメラを用いて一つ一つの動きを確認したり、様々な表現方法を紹介したりしていく。 題材に対して想像する時間をしっかり取る。 児童同士の交流や鑑賞を行い、楽しく進んで活動に取り組めるようにする。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊びの行い方を工夫し、自分が考えたことを他者に伝える力を養う必要がある。 運動遊びに活発に取り組む中で、基本的な動きを身に付けるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊びに取り組ませるだけでなく、動きを共有する時間を設け、各自の工夫を発表する時間を設けたり、ワークシートを工夫したりして、児童が考えを伝えやすいよう指導方法を改善する。 指導者が運動遊びの目的を理解し、基本的な動きが身に付くような場の工夫を行う。 		

令和5年度 府中市立若松小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や言語の定着を図る必要がある。 文章全体の構成や内容を意識しながら読み、内容を理解する力を育成していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な場面で既習漢字を用いる活動を取り入れ、漢字や文章を書く機会を増やす。 日々の授業の中で、段落相互の関係に着目しながら、叙述を基に文の構成を捉える機会を増やす。また、中心となる語や文を見つけて、要約するなど、内容を理解する力を高める機会を増やす。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 技能は学齢相当に身に付けられているが、思考、判断力には大きな差が見られる。身に付けた技能を応用できる力を育成する必要がある。 文章問題で正答率が低い。問題文を読み取れる力を育成する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題の把握→既習事項とのつながり→自力解決→ペア・グループでの意見交換→考えを深める→ふり返り、のように共同的探究型の学習の機会を増やす。 文章題で何を聞いているのかを明確にするために、図やイラスト、ICT機器を活用して視覚的に問題を把握したうえで練習に取り組んでいく。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるとともに、自然の事物・現象の差異点や共通点を基に、問題を見出すといった問題解決の力を育成する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象との出会いを基に、みんなで問題を見付け解決していく流れを作る。 発表や話し合い活動を通して、理由を説明したり聞いたりする場を設定する。 実験、観察を行う理由をしっかりと考えながら行わせるようにする。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を自分の生活と結び付けて考え、課題を把握する力を育成する必要がある。 資料の読み取りに慣れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、自分の生活に関連させて、身近な問題として捉えて考える機会を設定する。また、地域の学習に関係のある方から話を聞く機会を取り入れる。 授業の中で、グラフや資料を丁寧に読み取る時間を取り入れる。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 表現する楽しさと技術習得とのバランスを身に付けさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> めあてをもった演習を細かく設定する。 評価の機会を増やし、満足感を味わえるようにする。 発表の機会を設定する。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組んでいる一方で、注意力が散漫で細やかな指示を理解させる必要がある。 整理整頓ができず、道具を揃えさせる必要がある。 想像力や観察力の低下がみられる。体験不足を補う必要がある。 作品作りの技能と、それを支える思考力と発想力の両面を伸ばす指導を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 指示を聞くことや整理整頓について、担任と協力して一貫した指導をする。 図鑑や視覚資料を、作品制作に活用する。 鑑賞の時間を設け、他者の作品に触れることで、発想力や制作意欲を高める。 繰り返しの経験と指導で、定着を図る。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 各種の運動の楽しさに触れて、基本的な動きや技能を身に付ける必要がある。 自己の運動や身近な生活における健康の課題を見付け、解決のための方法や活動を工夫するとともに、考えたことを伝え合う力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かす心地よさを味わいながら多様な動きを組み合わせる活動を取り入れる。 自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝える活動を取り入れる。 		

令和5年度 府中市立若松小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・習得した漢字を文中で用いることが苦手な児童が多いため、繰り返し使い定着させる必要がある。 ・自分の考えを文章として書くことに苦手意識も持っている児童に、正しい文の構成で書く力を身に付けさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業や他の授業で進んで既習の漢字を使うことを意識させ、言葉掛けを行う。 ・基本文型を掲示して、どのように書くのかを意識させより良い表現方法を選択させながら、書かせる指導を行う。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・内容が少し変わるとできないなど、既習事項の考えを応用する力の育成が必要である。 ・基礎・基本の学力を活用し、思考を深める力の育成も合わせて必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じたコースの中でも、個に応じたプリントを用意して選択させたり、学び合いができる場を作ったりする。 ・ICT機器を使いながら、視覚的な教材を活用し、考えたことを見える化するなど思考の手助けとする。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の流れを身に付けながら、特に既習の内容や生活経験を基に、根拠ある予想や仮説を予想するといった問題解決の力を育成する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想、実験、結果、考察など、思考の流れをもとに問題解決を行う。 ・児童の理由がより説得力のあるものにするために、友達と予想の理由を交流する場を設定する。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会問題への関心は高い。自分の課題として捉えることができるようにする必要がある。 ・実際にどのような行動をしたらよいのかを自ら考え、課題を設定する力はもう少し育成する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習と生活に関連させながら身近な問題として捉えさせ、課題と自分達にできることを明確にさせる。 ・タブレット端末も活用し、友達と考えを共有して交流する機会を設定し、自分の考えを表現させる。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の活動に生き生きと取り組む児童が多い。音楽遊びを通して音に集中し、良い音を求めようとする力を付けていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーにまだ苦手意識のある児童には、運指、息遣い、タンギング、読譜を段階的に分けて、安心して学習に取り組めるような環境づくりをする。タブレット端末に指導用動画を工夫して作成する。 『聴く』ためのさまざまな活動を常時活動として位置付ける。(拍子、調性、強弱、音高など) 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・図画工作への意欲は高く、ねらいからずれずに自由に活動できている児童が多いので、その意欲を継続させていく必要がある。 ・児童の発想の出発点となる基礎的・基本的な技能と知識を体験的に身に付け、様々な材料に触れさせていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クロッキー帳やタブレット端末を使ったアイデアスケッチを行う。 ・様々な材料や用具に活動を年間を通して行い、体験的に知識を身に付けられるようにする。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きで、どの運動にも積極的に取り組んでいる姿が見られる。運動の特性を理解し、自分の課題をもち、友達と協力しながら、技能を高めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場の設定を工夫し、自分自身に合った場を選択できるようにする。 ・教え合い、共有する機会を設定し、運動の楽しさにつなげていく。 ・個人のめあてを明確に意識させることで、個別の課題に積極的に取り組めるようにする。 		

令和5年度 府中市立若松小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書くことに苦手意識をもつ児童に、書く力を身に付けさせる必要がある。 物語文では登場人物の心情を、説明文では構成を読み取ることができる力、また自分の言葉で表現する力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が個別に学習材を選択できる環境を整える。（ICT機器の活用、構成を視覚的に捉えられるようなワークシートを作成し活用する等） ペアや少人数での話し合い・伝え合いの時間を確保し、自分の考えに自信をもって取り組めるようにする。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算などを正確に取り組むことができる力を育成する必要がある。 文章題において、文の内容を正確に読み取り、式を立てる力を付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリルやeライブラリアドバンスなどを活用し、個別最適な学習環境を整え、学んだことの定着を図る。 自分の考えを言葉や図、式、数直線などを用いて説明する活動を意識的に取り入れる。グループでの意見交換はホワイトボードに記入して掲示するなど考えの共有化を図る。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象から見出した問題についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想するといった問題解決の力を育成する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験するときの視点を明確にする言葉を児童から引き出す。 付箋や表を用いて整理し、図を用いて具現化する。 児童が、図や絵を使って説明できるような活動を設定する。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象に興味・関心が高いが、グラフや資料から読み取り、事実を基に自分の考えをもたせる力を高める必要がある。 一人一人の考えや調べたことを共有し、考えを広めたり深めたりする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフや資料を基に、事実を読み取る活動と、思考する活動を分けて考え、確認させ、自分の考えをもたせる工夫をする。 タブレット端末を活用し、調べ学習をしたり、一人一人の考えを共有したりすることを手だてとする。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーの学習を基礎的なところから繰り返し行うことによって、「たのしい！」という思いを多くの児童が持つことができた。また、一部消極的な児童へ個別指導を行うことにより、学習意欲が高まってきている。その意欲を、今後も継続させていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーにまだ苦手意識のある児童には、運指、息遣い、タンギング、読譜、を段階的に分け、安心して学習に取り組めるような環境づくりをする。タブレット端末にリコーダー運指の指導動画を作成し、各自個別練習をおこなえるようにする。 『聴く』ためのさまざまな活動を常時活動として位置付ける。（拍子、調性、強弱、音高など） 曲想をつかませるためにタブレット端末から各自聴くことができ活用できるようにする。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 図画工作に対する意欲は高いが、言葉だけではねらいを理解できず、活動中にずれてしまう児童が多いため、軸を持った上で自由に活動できる力を付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ねらいを明確にし、毎時間確認を行い、ずれてしまう児童には個別指導を行う。 どこをおさえれば良いのか、順序を具体的に示し、理解しやすいように指導を工夫する。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活と学習内容を関連させて考えられるようにし、実践力を身に付けさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアや少人数で教え合う時間の確保をし、学び合いができるようにする。 タブレット端末を活用し、繰り返し実習に取り組めるよう教材の工夫をする。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自己やグループの運動の課題を見付け、解決のための方法や活動を工夫することや、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動に取り組むだけでなく、互いの動きを見合い、助言する機会を設定することで、課題を把握する力を養う。 タブレット端末を活用し、手本となる運動をいつでも見られるようにしたり、手本と自分の動きを比較したりすることで自分に必要な練習法などを選択する手助けとする。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分に身近なテーマでは、発表意欲も高く、多くの児童が発言することができた。 学習内容を活用して表現する力を付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみながら自分の思いを伝えられるよう、ゲーム形式を取り入れるなど、活動を工夫する。 		

令和5年度 府中市立若松小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・作文に対して苦手意識を持っている児童がいるので、何を書けばよいか、どのように構成を考えていくかといった書く力を育む必要がある。 ・漢字学習や音読には意欲的に取り組む児童が多い。その一方で、教材文の内容を読み取る力を伸ばしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを児童に選択させたり、ICTの活用を通して、児童によって文章構成を考えやすくしたり、少しでも書く量を減らしたりするなど、書くことに対する抵抗を減らしていく。 ・内容の読み取りに関しては、学習形態を工夫して、お互いの考えを伝え合う活動を取り入れたり、学習のゴールを明確にしたりすることで、目的をもって取り組むようにさせる。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算力について、小数点の位置を間違えないようにすることと、通分・約分の練習をしていく必要がある。 ・文章題の読解力をつけ、問題に適した立式を導くことができるようにしていく必要がある。 ・「データの活用」の領域が、全国平均と比べて低く、学んだことを定着させていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その単元の間だけ該当する計算の練習をするだけでなく、年間を通して計算の練習を積み重ねていき、理解を定着させる。 ・文章題で何を聞いているのかを明確にするために、図やイラスト、ICT機器を活用して視覚的に問題を把握したうえで練習に取り組んでいく。 ・表やグラフを読み取る際に、解くための根拠を明らかにさせる。また、算数だけでなく、他教科などで表やグラフを活用した資料を作成する時間を設ける。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象から見出した問題について追究し、より妥当な考えをつくり出すといった問題解決の力を育成する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察の結果などは視点を決めて整理する。 ・結果の共通点・差異点や傾向に着目して考えられるようにまとめる。 ・グループで交流する中で一つの考えを導けるように話し合う場を設定する。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な社会用語については、ノートの写し方等を工夫して理解しようとする姿勢は見られるが、社会との関連付けをして理解する力を育成する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で出てきた用語に関しては、今の社会ではどうかといった照らし合わせを細かくしながら関連付けを図っていく。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度コロナ感染防止のためリコーダー学習に制限があったが、この1学期中に各自努力をしてそのブランクをほほうめられるほど良い音色で演奏ができるようになった。アイコンタクトと息をあわせる2重奏や合奏など協同的な活動を多く経験させて、音楽の喜びを体得させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運指・息遣い・タンギング・読譜を分けて段階的にわけ、安心して学習を進められるような方法を工夫する。自主練習ができるようにタブレット端末に指導動画を作成しておく。 ・初めに曲想を感じ取ってから学習できるように、タブレット端末に課題曲を用意する。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に主体的に取り組むことができ、それぞれの進捗で表現を楽しむことができている。 ・作品をつくりきることに課題があるため、自分が納得いく段階までつくりきる力をつけたい。また、主題に合った形・色の組み合わせまでよく考える力も付けていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学習のねらいを明確にする。 ・選択式のワークシートやタブレット端末の活用で、それぞれに合ったアイデア出しができるようにする。 ・作品づくりの基本的な順序を示し、見通しをもって活動できるようにする。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・実習や観察、調査などの活動を通して学んだことを実際の生活に活かせるようにする必要がある。 ・ミシン、裁縫道具などを正しく使って、自分の生活に役立つものを楽しく作らせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団で実施することが難しい活動に関しては、動画視聴や家庭に協力していただき、より実践に近い形で経験をさせる。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きで、どの領域でも意欲的に活動できているが、自身の課題を把握し、その課題解決に向けてどのようにすればよいかを考える力を付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を行う際に、友達同士お互いに動きを見合い、伝え合うことで自身の課題を把握し、解決に向けて協働的に活動する。また、タブレット端末を活用し、自分やチームの動き、演技等を見ることで、課題解決に向けてグループで話し合う。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・英単語の発音、意味、英単語を使った会話といったコミュニケーションに関しては、意欲的に取り組んでいるが、文章にして書くことの力を付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章だけでなく、英単語でも書く取り組みをこまめに入れ、書くことへの苦手意識を少しずつ克服し、文章等につなげていく。 		